

築地活文舎五号仮名

いつ誰が彫ったかわからないが前期五号の優れたヴァリアント

小宮山博史

明治三〇年代始め『印刷雑誌』に広告を出していますが、築地活文舎の規模や実態はよくわかりません。この覆刻は『印刷雑誌』第八巻第五号（印刷雑誌社、明治三十一年六月）に掲載された広告の複写をもとにしています。★図四〇

築地体前期五号と同じ書風であることがわかりますが、くらべてみますと細部でだいぶ違いがあります。ですから前期五号の改刻と違ってよいでしょう。あくまで字形を見た印象ですが、改刻の方針は三つと思われれます。一つは（これが大きな特長ですが）前期五号が持つ右上がりの構造を水平に近づけようとしていること、一つは文字の大きさをできるだけ揃えようとしていること、そしてもう一つは

五號活字體

●フアンテール五號活字 (一字一厘七毛)	
電話番號 本局 浪花 株式會社	郵松 定期 賣買 直取引所 橫濱
新舊金錄公債證書 鐵道 株券 元價	債券 建物 造作 相場 商況
正札 兩營 白米 雜貨 醫療 器械	製造 銅石版 名刺 印刷 古書畫
明朝 活字 母型 鑄型 金巾	定價表 金九万八千七百六十五圓
四十三錢二厘一毛 鑑定 應用	性質成分及分量 東京市 大坂府
新瀉縣 名古屋 馬関 業名	四日市 兵庫 堂島 目錄 論說
社說 雜報 小說 廣告 發端	總論 首編篇 第一章 第二部
回部條 項目 生産 唐物	明治三十一年六月廿八日

(如何に變體の活字と雖も多數御入用の節は急速新調いたし高需に應ずべくも也)

いろはにはへとちりぬるをわかよたれ	ろつねならむうゐのたぐやまけふこね	てあさきゆめみしゑひもせすんごどが	ぎくげとさしすせすだちづでとばひふ	べばびぶべばぐゝゝとちほひーん	まぐくぐももも
○片假名 (二字一厘七毛)	イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレ	ソツネチナラムウヰノオクヤマケフコ	エテアサキユメシエヒモセスンノ片	ヒガギグダゴザジズゼゾダヂヅドバ	ビブベボツバビブベボツツノサヤク
○萬葉假名 (一字一厘七毛)	いろはにえふよみゆるとせおむりぬる	ををををををををををををををを	ををををををををををををををを	ををををををををををををををを	ををををををををををををををを

東京市京橋區築地本郷町六番地築地活文會

曲線は前期五号が持つ鋭さを除き緩やかなカーブにしてあることです。たとえば「い」を見てみますと、前期五号の左面は左に傾けてあります。が活文會五号はほぼ垂直に見えるようになっていています。「ふ」も下辺を見る

★図四〇……築地活文會五号假名「印刷雜誌」第八卷第五号(印刷雜誌社 明治三十二年六月刊)前期五号をある目的を持って改刻した例。

と右上がりの構造を水平に近づけています。「つ」はふところを絞って上辺のふくらみを抑えて水平を出していることがわかると思います。「ま」では縦画を右に倒しているのを垂直に直し、始筆の横画を水平に作っています。「け」の左画は「く」の字形の軟らかい曲線にして垂直に見せる作り方にし、右側の縦画も始筆から終筆にかけて右に張り出す曲線にし、垂直を感じさせるようになっていきます。その結果カウンターが広くなり大きさも揃って見えるようになりました。「う」も直立して見えるように作っていることがわかります。「ぬ」の左下の折り返し部分を上にあげて水平に見えるようにしてあります。

「ろ」や「り」「ら」「ち」の終筆部分は前期五号より長く作っているのは文字そのものをはっきりと見せる工夫ですし、また下の空間を引き締める効果もあるのではないのでしょうか。

「に」は左画をふっくらとふくらまし、右の「こ」の字形は上下を広げて文字を大きく見せています。「す」も文字の大きさを出すために横画の長さをのばして見せていますので、大きさをあるていど揃えようとする意志はあったと感じます。ただこの時代は文字固有の大きさにたいするこだわりは現在よりもはるかに強かったはずですから、「め」などは極端に小さく作っていますし、いまのようにすべての文字を同じ大きさに見えるように作ることはできなかつたかもしれません。

前期五号と異なるところはまだまだあります。ぜひ比較していただき、改刻というのがいかに細かい部分に手を入れる行為かを知っていただきたいと思います。くり返されるこの細部の修正の成果が、現在の書体にも生

に	に	ろ	ろ	け	け	い	い
こ	こ	り	り	く	く	ふ	ふ
す	す	ら	ら	う	う	つ	つ
め	め	ち	ち	ぬ	ぬ	ま	ま

★築地体前期五号仮名（右行）と「築地活文舎五号仮名」（左行）の比較（日本の活字書体名作精選）より。

かされているのです。

築地活文舎のこの試みが印刷・活字業界に受け入れられたかどうかについては残念ながらわかりません。しかし改刻の方向性は正しく、この数年後に発表される築地体後期五号の制作に何らかの影響を与えた可能性はすてきれないと考えています。

築地活文舎五号を覆刻する上で問題となったのが線の太さをどう解釈するかでした。使用した広告頁は築地活版の見本帳のようにかなり神経を使った印刷物ではなく、その上複写でしたから太さにはばらつきがありません。铸造された活字は表面にインキを着けてプレスすることで文字が再現されます。プレスの強弱、インキの量、紙質によって活字表面の字形より太まります。この太まった部分をマージナル・ゾーンといいます。それを太い部分でとらえるか、より細く解釈するかによって字形と線幅は変わってきます。活文舎五号の場合はこのマージナル・ゾーンを強調した形で覆刻してあります。ですから築地体前期五号より太くなっています。金属活字の場合、活字表面に突出している文字はいわば虚像で、印刷されたものが実像になります。実像から虚像を割り出す作業は何回やっても難しく緊張します。

◎組版仕様

書体=ヒラギノ明朝 Std W4 (漢字・欧文・アラビア数字) 築地活文舎五号仮名 (仮名, 「日本の活字書体名作精選」より)

見出し=サイズ: 60 級/本文 (p.158)=サイズ: 24 級, 字送り: 30 齒, 行送り: 36 齒

本文 (p.159 ~ p.161)=サイズ: 16 級, 字送り: 20 齒, 行送り: 30 齒, 1 行: 33 字詰め・22 行

◎発行=大日本スクリュー製造株式会社 ◎デザイン・組版=向井裕一 (gryph)

(2005.03.18)

★築地体前期五号仮名 (二五級)

あ あめつちほしそらやまか
は みねたにくもきりむろこけ
ひ どといぬうへすゑゆわさる
お ふせよえのをなれぬてん
い ろくごくごくごくごく
ア メツチホシソラヤマカハミ
ネ タニニクモキリムロコケヒ
ト イヌウヘスエユワサルオフ
セ ヨエノヲナレ井テン、ッ

★築地活文舎五号仮名 (一五級)

あ めつちほしそらやまか
は みねたにくもきりむろこけ
ひ どといぬうへすゑゆわさる
お ふせよえのをなれぬてん
い ろくごくごくごくごく
ア メツチホシソラヤマカハミ
ネ タニニクモキリムロコケヒ
ト イヌウヘスエユワサルオフ
セ ヨエノヲナレ井テン、ッ